

第5回豊橋市教育課題検討会議 議事録（要旨）

平成26年9月1日（月）14:30～

於：豊橋市役所 東81会議室

- 1 出席者 委員 稲田 充男、白井 正康、岡本 賀生、市川 英輝、笹野 壽
大久保 貴子、羽柴 留美、鈴木 恵美子 ※敬称略
- 事務局 加藤 喜康（教育政策課長）、宮崎 正道（学校教育課長）、
田中 正己（教育政策課主幹）、山本 誠二（教育政策課課長補佐）
山田 浩一（教育政策課指導主事）、酒井 憲一（教育政策課指導主事）
上野 喜一郎（学校教育課指導主事）、三浦 正雄（教育政策課主査）
大橋 史明（教育政策課主事）

2 事務局あいさつ（加藤 教育政策課長）

- ・昨年度まとめていただいた中間報告の確認。
- ・豊橋市としての小中一貫教育に対する方向性などを協議いただきたい。

3 議事 「中間報告」について

《委員の主な意見》

・豊橋でも小中連携という形で様々なことを行っている。前芝小中学校で中1ギャップが緩和されたとあるが、可視化できる状態で、教えて欲しい。

・五並中学校、小沢・細谷小学校でも子どもたちにとってどういう成果があったか教えて欲しい。いろいろやっている実践を数値的に分かるようにして欲しい。そうすると小中のつながりの施策が、どのように価値があるのかということが分かる。

（事務局）不登校の出現率は、現状では前芝は0人である。小中一貫によるものであるかは、分からない。研究をやり始める前と後とでどのように変化したか調べてみます。

・教員の免許について、中学校あるいは小学校の免許しかない人がいるが、免許の問題が課題となってくるが、現在の豊橋市内の現状はどのようになっているか。

（事務局）調べれば分かりますが、今は分かりません。

・今後の教員採用で免許を持っているかないかで、採用に影響を受けることはあるのか？

（事務局）なるべく小中学校でつながりある免許を取得できるようになっていくと思う。

・教育職員免許法の改正案がもうじき出てくると思う。現在は、臨時免許状で対応しており担任はできないが、教科指導はできるように中学校免許を扱う事ができる。

（事務局）臨時免許状は、現在、豊橋市では発行されておらず、臨時免許状を出さなくてもやれるようにしている。

・小中学校の二つの免許を持っている人を増やしていくのが、国の政策です。

4 国の動きについて 三浦主査が説明

《委員の主な意見》

- ・教員免許について専科教員（非常勤教員）は、どれくらいの割合いるのか。
（事務局）専科教員は、音楽、理科、図工などの芸術教科が多い。また、小中学校双方で指導ができるといいが、今そのシステムを導入しているのは外国人教員です。
- ・2016年に向けて豊橋市も受け皿を考えていくのか。
（事務局）統廃合のタイミングでこのようなことを導入すると言う事は考えていくことになると思う。

5 今後の方向性について

《委員の主な意見》

- ・今後、この検討会議がどのような方向へ進んでいくのかということですが、教科担任制はずっと前からやっているの、更に踏み込んで小中学校の先生が、小中学校間で行き来できるようになると良いと思います。

- ・方向性がみえなくなってきたので、整理をさせていただきます。

豊橋市が連携のまま進めていくのか、一貫まで持って行くのか、それとも一部の地域で始めて全ての学校まで広げていくのか。

先進的にやってきた三鷹市や呉市は、意外と結果が良いです。不登校児童生徒も減っている、学力も伸びている、全国的にはかなり受け入れられてきている。

今のままで良ければこのまま行くし、それ以上に進めていくのであれば、4つの教育課題のどれに注力して進めるかを決めておかなければならない。

法的には簡単に小中一貫校を制度化して載せてくるでしょうが、取り入れるかはまた別の問題です。

豊橋市の小中連携の現状を考えると、中学校区を単位とした今後の方向性を示す必要があります。そのためには、具体的な項目を設け、可視化したものを示していかなければならないです。

中学校区での共通の課題と学校毎固有の課題を分けて整理し、例えば、中学校区に統括校長の配置を行うなどして、中学校区単位で強いリーダーシップを発揮しなければなりません。また、ブロック単位で指導主事も配置するなどが考えられます。

学校の強みと顕在カリキュラムは、簡単にできますが、潜在カリキュラムを作成するのは難しいです。研究校の成果が研究校だけで終わったら意味はない。

そして、コミュニティスクールや地域連携をどのように生かしていくかが大切です。

地域教育推進コーディネーターをしっかりと位置付け、小中一貫や地域連携に尽力してもらう必要がある。

一番大切なのは、子ども達の教育とすることであって、発達段階で中学校の学びへ上がっていくときの抽象的な学びから具体的な学びへ進化していく中で、顕在的カリキュラム

だけを連携させて小中一貫教育としても意味はない。

例えば3校の小学校と1校の中学校で小中一貫教育を進める豊川市の学校は、学びの10カ条、学びの郷土学習の共通理解を進めていこうとしている。一番大切なのは、子どもたちが安心して意欲的に学べる環境をいかに作ってあげるかである。

時代の流れは、小中一貫であるが、教育的レベルと財政的レベルの問題がある。

豊橋市が小中一貫を進めていくなら、何か目玉が欲しいが、何を目玉にできるかを考えると、英語がある。例えば英語とキャリア教育だけでも潜在的なカリキュラムができる。他にはESDを柱にして、この3本を柱にして各中学校区で形成を行うなどが考えられる。

ただ、小中一貫教育という新しい制度を導入するならば、なにかを削らなければならない。スクラップアンドビルドをすれば、現場も協力をしてくれると思う。

・特色ある学校を推進しており、いろいろな面で確立する時期にあるが、地域住民は、小学校単位で学校があり自治会があるという意識が強いので、そのように考えている人たちがいるということに配慮をすることが求められる。

・二男が小学校6年生だが、親としてはスムーズに中学校へ行かせるにはどうしたらいいのかなという不安はあるため、小中一貫教育は、魅力がある。

・教科の面でみると小中一貫があるとありがたいと思う。学校の会合では貧困から学力の格差も生じていることを感じる。

また、教員の意識のなかに中学校ではこれを学ぶので小学校ではこのように教えるということ意識してもらえるとありがたい。何らかの形で導いて欲しいと思っており、地域の方にも協力を得られたらと思う。

・例えば中学校単位で小中一貫を推進していくとしても、自治会の単位が中学校になるわけではない。各自治会の代表が集まり、それをコーディネーターがまとめることになると思うが、従来のテリトリー意識を持ってしまいうまくいかない

・小学校と中学校の学習方法がうまくつながるようにできれば、もう少しスムーズに行けると思う。

次回は10月20日午後2時30分から